

関西の奥座敷、 芦原温泉の開湯起源

福 井北部の温泉街で、関西の奥座敷と呼ばれる芦原温泉。明治16（1883）年9月9日に堀江十楽の字一番に井戸を掘ったところ、湯が湧き出たとされるのが最初です。これは『福井県芦原温泉誌』（島崎圭一著）に記載されているもので、その後の各温泉誌にも引用され、ほぼ定説のようになっていきます。

ただ、これは、公的な記録が残っておらず、開湯から50年たった頃の聞き取りによって記載されたものです。そのため、いくつかの疑問点があります。例えば、同誌には湯が出て大評判になったとありますが、同時期前後の新聞にはほとんどその記載がありません。更に、他の地区が温泉を掘り出したのは翌年3月以降

と期間が空いているのはなぜでしょうか。

開湯期から旅館をしていた（現在は廃業）お宅に伝承があります。「あの井戸は、元々飲料水を確保するために掘っていたので、出てきたのがお湯、しかも塩分が含まれていたので大変がっかりし、しばらく放置していた」というものです。50年誌とは真逆の話です。その続きは「寒くなつてからお湯が出たことを思い出し、風呂に使ってみたところ大変よく評判になった」という話で、ここは50年誌と似ています。温泉開湯に「がっかり」では後々の評判に都合が悪いので、最初の部分は削除されたのでしょうか。

ここに注目の資料が二つあります。一つ目は梅浦村（現在の丹生郡越前町梅浦）外四ヶ村戸長だった岡田彦三郎が明治18（1885）年8月26日から12日間にわたり芦原温泉へ湯治に出かけた記録です。これの8月27日に、明治17（1884）年3月に早損の備えに井戸を掘ったところ温泉が湧出したと記されています。二つ目は明治17年3月13日の福井新聞。ここには、近頃に温泉が湧出したとの記事があります。

この二つの資料からすると、当時の人々が明治17年3月に温泉が湧出したことを認識しているのがわかりま



明治時代末の芦原温泉全景

す。ではなぜ50年誌では明治16年9月9日としたのでしょうか。
まず井戸そのものを掘ったのは明治16年であることが明治17年4月3日の福井新聞の記事よりわかります。そして岡田彦三郎日記にあるように、「水」を求めて掘った井戸から「塩味のするぬるい湯」が出たので放置され、翌年になってから温泉として認識されたのかもしれない。推測の域を出ませんが、伝承と記録を合わせると定説とは違った開湯の風景が見えてきそうです。

関連史料・ゆかりの地

温泉発祥地公園



温泉発祥の井戸

芦原温泉で最初に温泉が掘り当てられたのは堀江十楽の地籍で、現在は温泉発祥地公園となっています。温泉発祥の井戸や石碑があり、往時の名残を感じさせてくれます。

【住所】あわら市堀江十楽1-30-1（えちぜん鉄道あわら湯のまち駅より徒歩6分）